

令和 3 年度

岩手県商店街実態調査報告書

概要版

令和 4 年 3 月

岩手県商工労働観光部経営支援課

1 商店街実態調査について

(1) 目的

商店街組織の活動実態や商業環境等の現況を把握し、商店街振興施策立案の基礎資料とすることを目的に実施。

(2) 調査概要

商店街振興組合（20）、事業協同組合（14）、任意団体（92）の計 126 団体（前回、平成 30 年度調査では 146 団体）を対象に、令和 3 年 9 月 1 日現在の状況を調査票記入及びヒアリングにより調査。その内、商店街振興組合（18）、事業協同組合（14）、任意団体（86）の計 118 団体から調査票を回収（回収率 93.7%）。

2 調査結果（総論）

(1) 本県の商店街は、商店街数の減少や、来街者数の減少、空き店舗の増加など、引き続き厳しい状況にある。

(2) 商店街の当面の問題は、「経営者の高齢化・後継者難」、「商圈人口の減少」、「業種・業態の不足」が上位を占め、この傾向は前回調査と同様であり、引き続き大きな課題となっている。

(3) 一方、少数ではあるが、店舗経営者の最も多い年齢層で「40 代以下」の回答があり（前回回答なし）、次世代リーダーが「いる」と回答した組織が増える等プラス面も見受けられた。

(4) 新型コロナウイルス感染症の影響については、「各店における売上の減少」、「来街者の減少」、「イベント等の延期・中止」などの回答があった。

3 調査結果の主なポイント

(1) 商店街の概要について

ア 法人化している商店街の数は、前回調査（平成 30 年度）と比べて 6 団体減り、任意団体も 14 団体減った。（図表 1）

【図表 1】商店街数の推移

調査年度	組 合 組 織					任意団体		合計	
	商店街振興組合		事業協同組合		合計	実在数	回収数	実在数	回収数
	実在数	回収数	実在数	回収数	実在数				
平成27年度	25	24	17	16	42	111	108	153	148
平成30年度	23	21	17	14	40	106	84	146	119
令和3年度	20	18	14	14	34	92	86	126	118

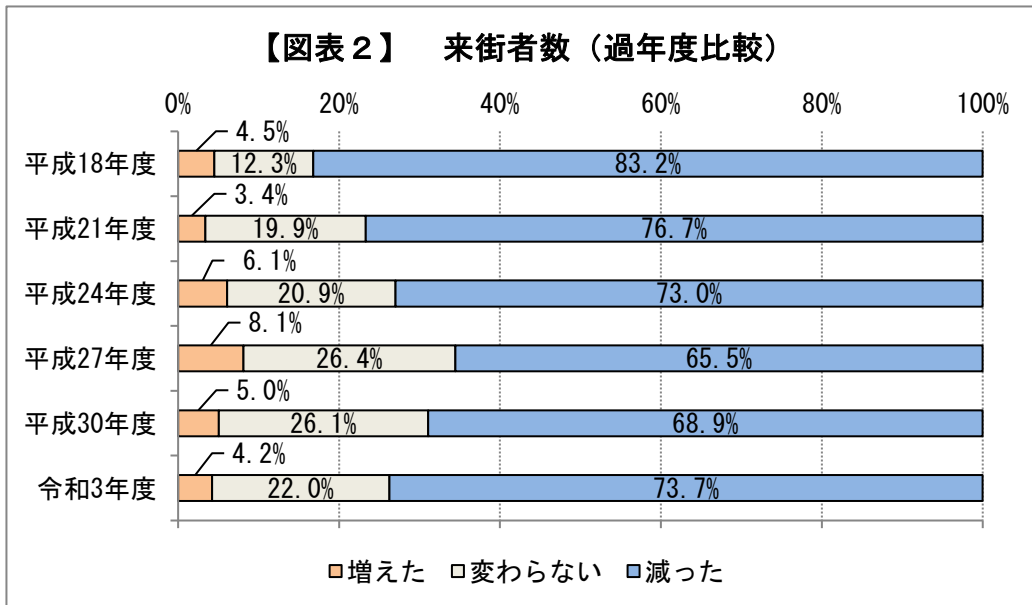
※1 商店街振興組合、事業協同組合についてはそれぞれ岩手県商店街振興組合連合会、岩手県中小企業団体中央会の調べにより、任意団体については各商工会及び各商工会議所の調べによる。

イ 1 商店街当たりの平均店舗数（空き店舗を除く）は 30.4 店、空き店舗数は 6.1 店（前回 4.7 店）であった。

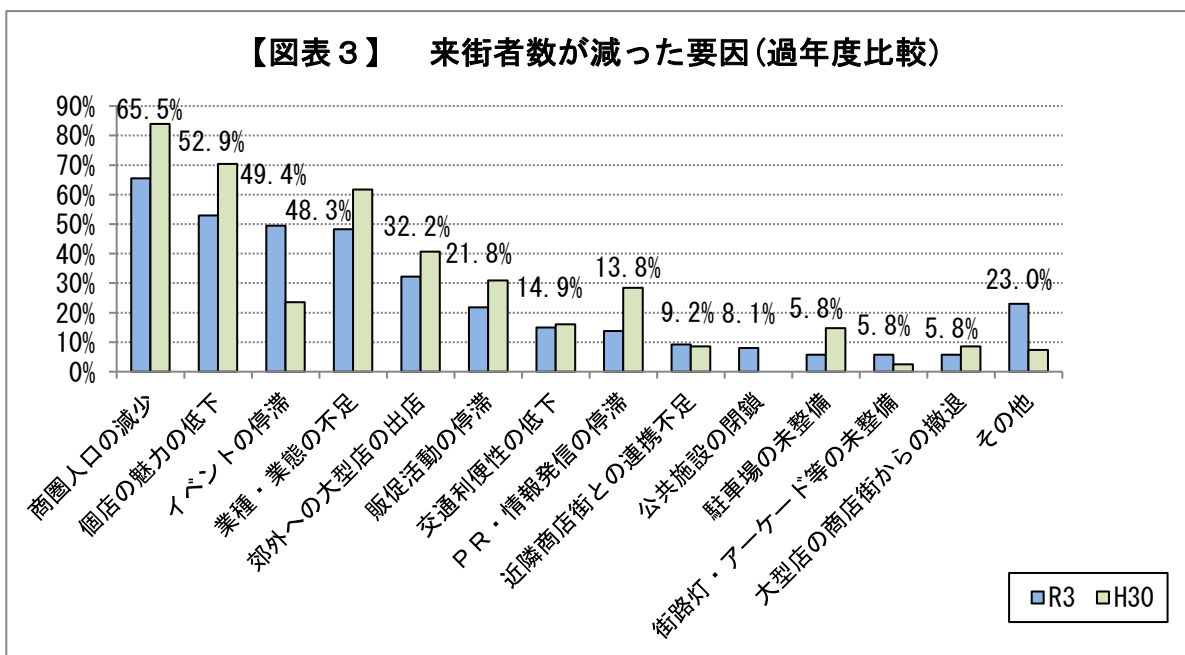
ウ 商店街の業種別店舗数は、「小売業全体」で 35.7%であり、次いで「飲食店、飲食サービス業」が 24.0%、「サービス業（飲食を除く）」が 22.9%となっている。

(2) 商店街への来街者の状況について

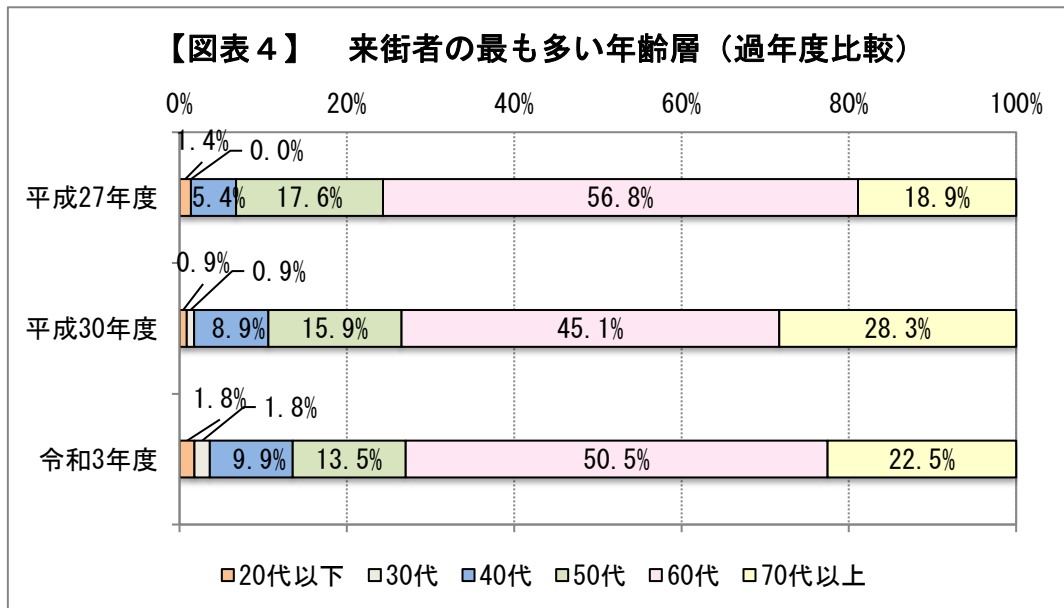
ア 3 年前と比較した来街者数は、「増えた」と回答した商店街が 4.2%（前回 5.0%）、「減った」と回答した商店街は 73.7%（前回 68.9%）であった。（図表 2）



イ 来街者が減った要因は、「商圈人口の減少」（65.5%）、「個店の魅力の低下」（52.9%）、「イベントの停滞」（49.4%）が上位を占めた。（図表 3）

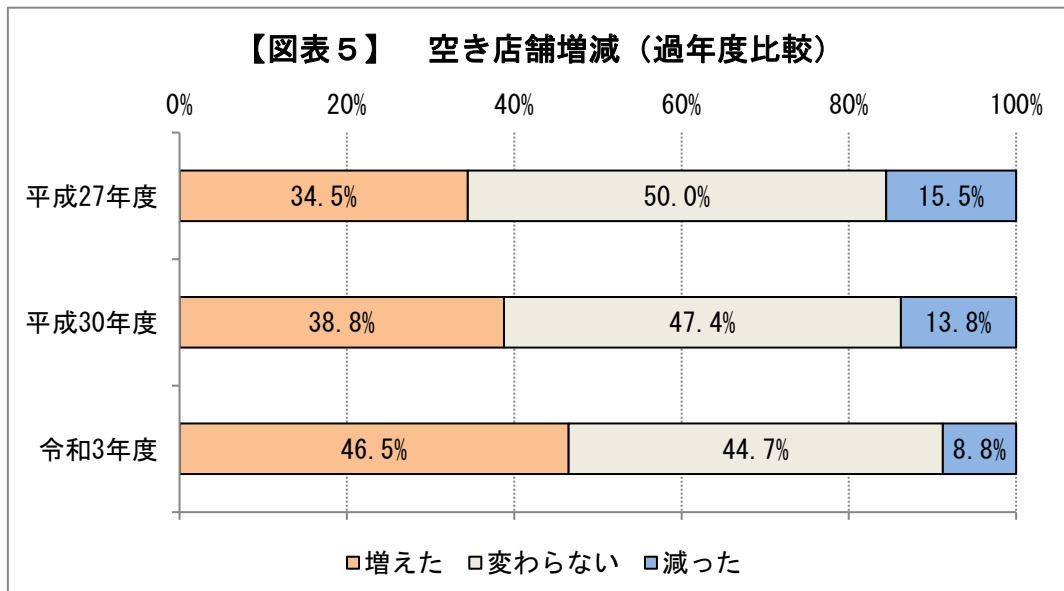


ウ 来街者の最も多い年代は、「60代」（50.5%）と回答した商店街が最も多く、「70代以上」と合わせると73.0%となる。（図表4）



(3) 空き店舗について

ア 3年前と比較した空き店舗数は、「増えた」が46.5%（前回38.8%）、「減った」が8.8%（前回13.8%）であった。（図表5）

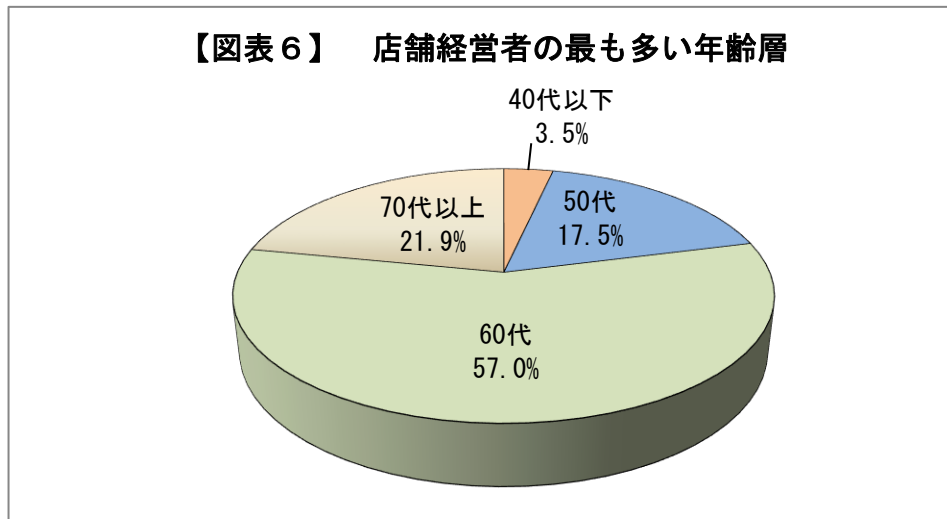


イ 空き店舗が解消されない主な理由は、「家主に貸す意思がない」が32.7%で最も多く、次いで「店の補修・改修ができない」30.8%、「立地条件・交通環境がよくない」24.3%、「家賃が高い」24.3%となっている。

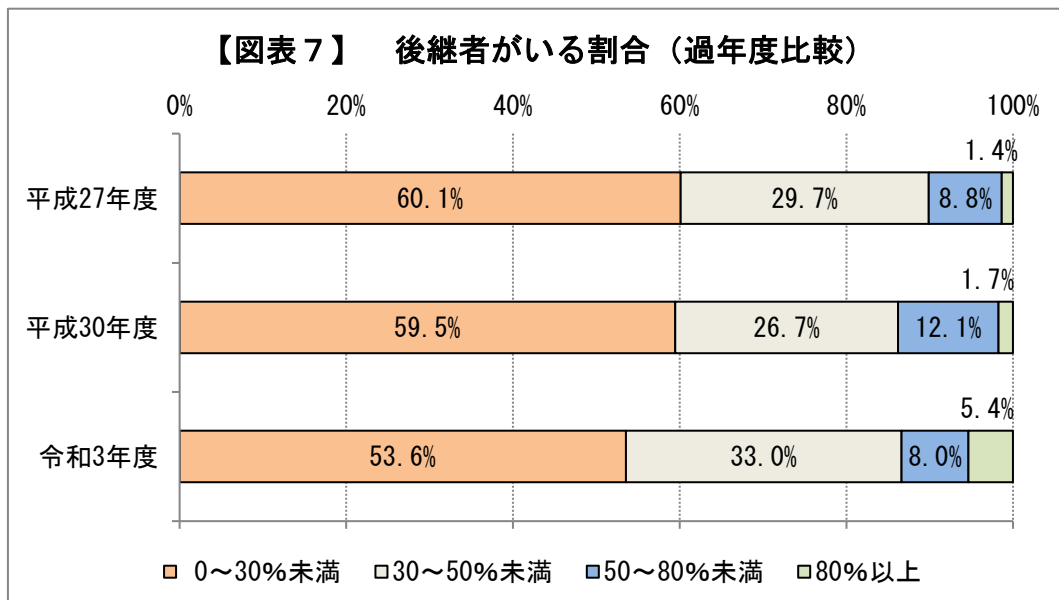
(4) 店舗経営者及び後継者について

ア 店舗経営者の最も多い年代は、「60代」と回答した商店街が57.0%で最も多く、「70代以上」と合わせると78.9%であった。

また、前回調査（平成30年度）では、「40代以下」と回答した商店街はなかったが、今回は3.5%と少数であるが、若い店舗経営者が中心の商店街も現れている。（図表6）



イ 後継者がいる割合は、「0～30%未満」と回答した商店街が53.6%（前回59.5%）、「80%以上」と回答した商店街が5.4%（前回1.7%）であった。（図表7）



(5) 商店街の強み・弱みについて

ア 商店街の強みについて尋ねたところ（複数回答）、「地域密着型であること」が68.8%で最も多く、次いで「顧客とのつながり」59.8%、「立地条件」35.7%となっている。

イ 商店街の弱みについて尋ねたところ（複数回答）、「店舗の多様性」が56.3%で最も多く、次いで「店舗の数」55.4%、「商店街でのイベント」25.0%となっている。

(6) 次世代リーダーについて

次世代リーダーが「いる」と回答した商店街は60.0%（前回50.5%）であった。

(7) 商店街活動について

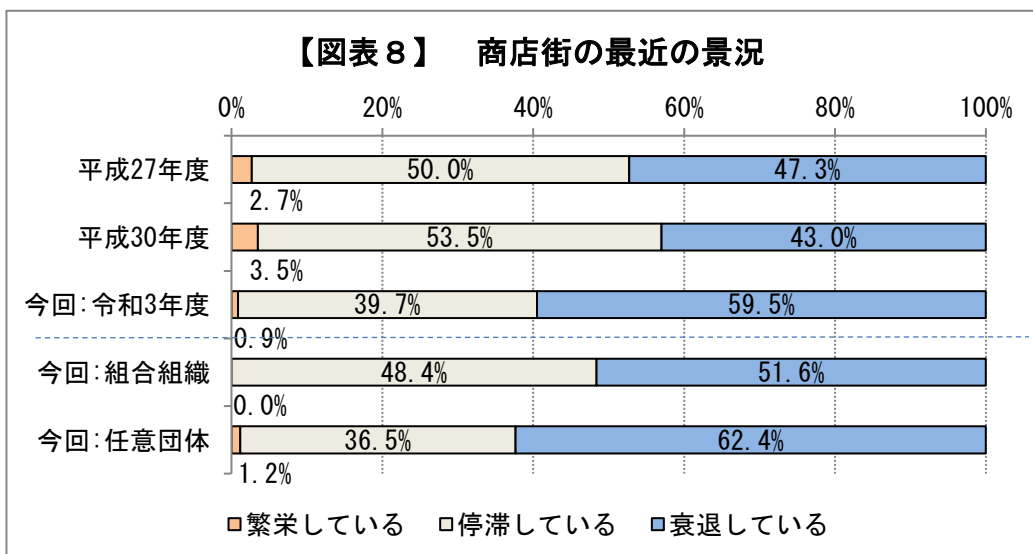
ア 共同売出し事業を行っている商店街は37.9%（前回29.6%）、集客イベントを実施している商店街は44.8%（前回53.6%）となっており、それらの事業の集客効果は、「かなりある」が8.5%（前回10.5%）、「ある程度ある」が51.1%（前回53.7%）であった。

イ 地域住民のニーズに応じた活動は、実施している商店街が47.8%（前回34.2%）であり、取組内容は「にぎわいの創出」が54.7%、「コミュニティの場の提供」が35.9%、「防犯」が28.3%で、上位を占めている。

ウ 買い物弱者を支援する商店街活動は、80.7%の商店街が、ニーズがあると感じていると回答したが、「ニーズがあり、実施している」と回答した商店街は7.9%であった。

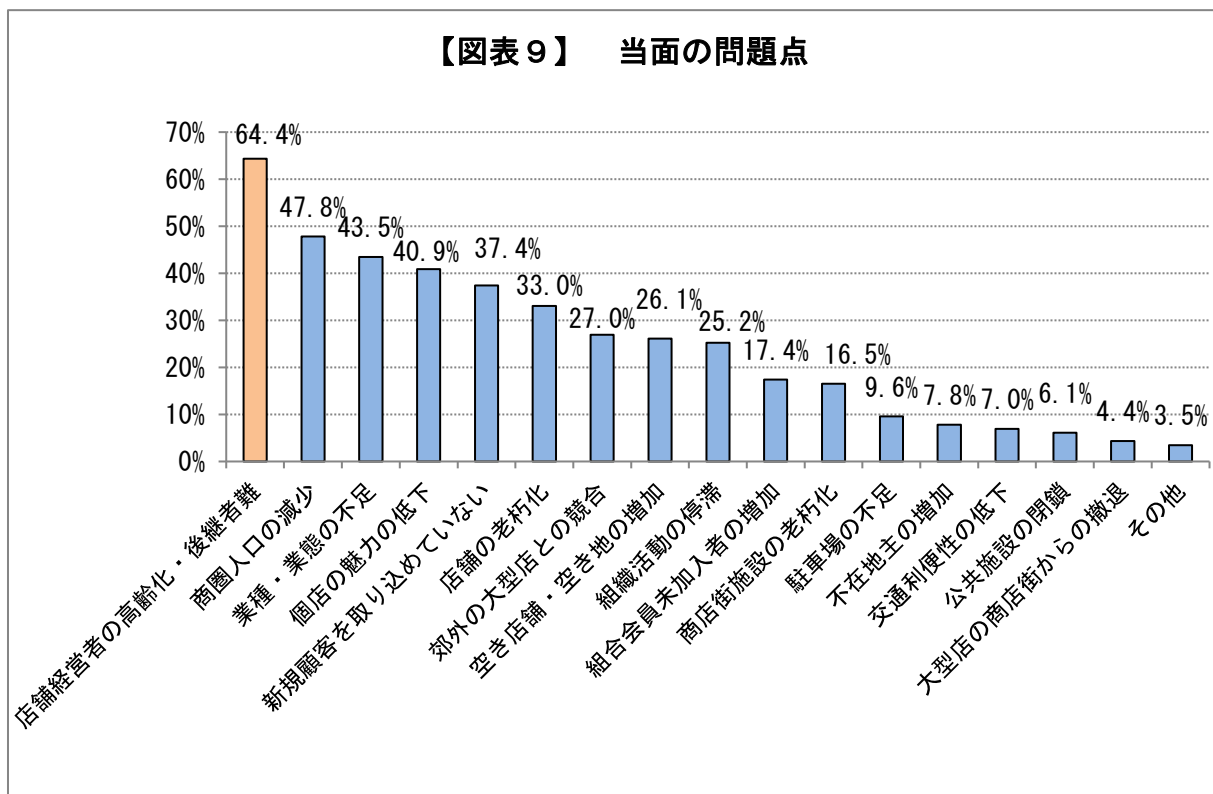
(8) 商店街の景況について

最近の景況は、「繁栄している」と回答した商店街が0.9%（前回3.5%）にとどまり、「衰退している」と回答した商店街が59.5%（前回43.0%）で増加している。（図表8）



(9) 商店街の当面の問題点について

商店街の当面の問題点は、「店舗経営者の高齢化・後継者難」(64.4%)、「商圈人口の減少」(47.8%)、「業種・業態の不足」(43.5%)が上位を占めた。(図表9、10)



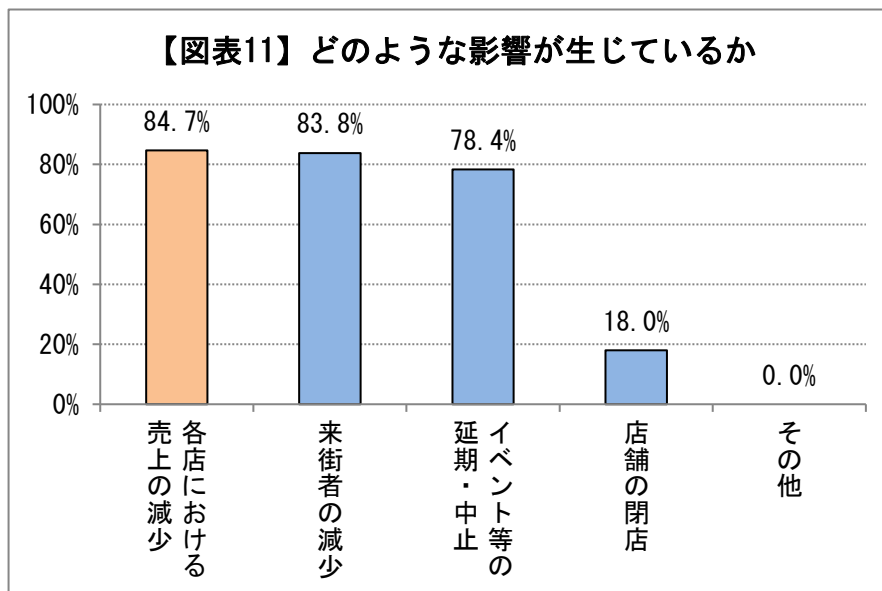
【図表10】 当面の問題（前回調査との比較）

今回（令和3年度）		前回（平成30年度）	
①店舗経営者の高齢化・後継者難	64.4%	①商店街利用者（顧客等）の高齢化	74.5%
②商圈人口の減少	47.8%	②店舗経営者の高齢化・後継者難	61.3%
③業種・業態の不足	43.5%	③商圈人口の減少	60.4%
④個店の魅力の低下	40.9%	④業種・業態の不足	46.2%
⑤新規顧客を取り込めていない	37.4%	⑤個店の魅力の低下	38.7%

(10) 新型コロナウイルス感染症への対応について

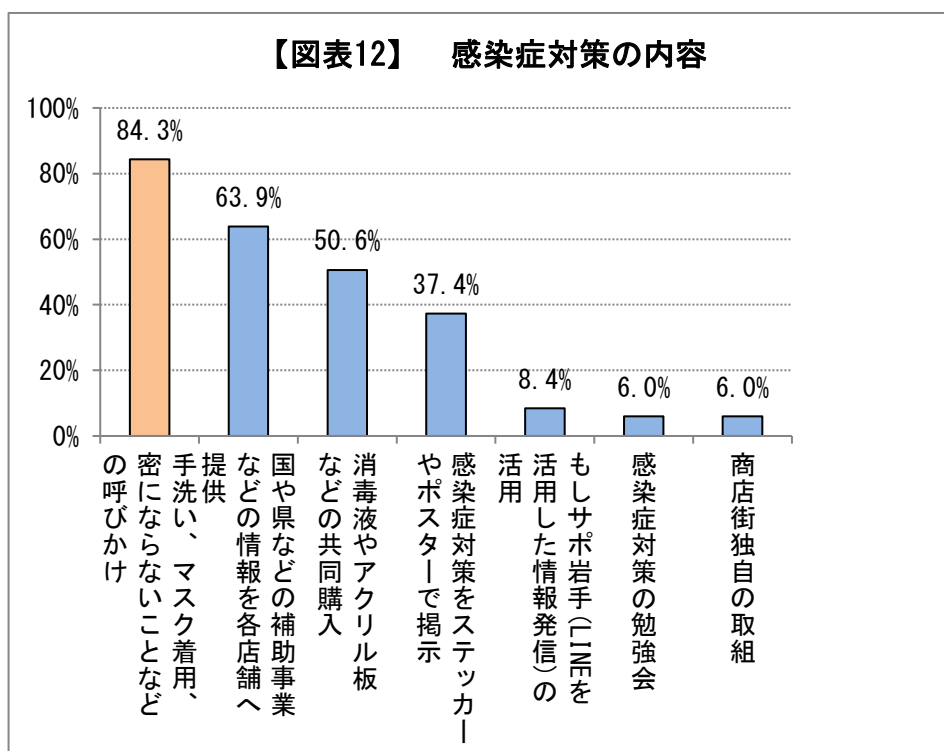
ア 新型コロナウイルス感染症の影響は、「かなりある」、「ある程度ある」と回答した商店街が94.9%であった。

また、影響の内容については、「各店における売上の減少」(84.7%)、「来街者の減少」(83.8%)、「イベント等の延期・中止」(78.4%)が上位を占めている。(図表11)



イ 商店街としての新型コロナウイルス感染症対策は、「取り組んでいる」と回答した商店街が71.6%、「取り組みたいと考えている」と回答した商店街が9.5%であった。

また、「取り組んでいる」と回答した商店街の感染症対策の内容は、「手洗い、マスク着用、密にならないことなどの呼びかけ」が84.3%で最も高かった。(図表12)



ウ 商店街としての売上回復に向けた取組は、「取り組んでいる」と回答した商店街が 25.9%、「取り組みたいと考えている」と回答した商店街が 35.3%となっている。

また、「取り組んでいる」と回答した商店街の取組内容は、「感染予防策を講じたイベントの実施」が 56.7%と最も高かった。(図表 13)

